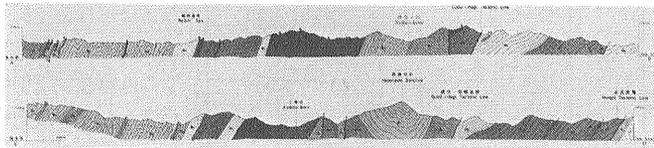


- 地質はすべて四万十累層群の砂岩及び泥岩を主とする地向斜堆積層からなり四万十地向斜の前半期を示す日高川層群と後半期の音無川層群に分けられる。これらはいずれも複雑な構造を呈する。
- 日高川層群は泥質岩が優勢で緑色岩類や放散虫チャートの一部に伴う優地向斜堆積相を示し酸性凝灰岩がひんばんに伴われる。緑色岩類の分布は詳しく検討され泥質岩を主とする龍神累層の幾つかの特定の層準に挟み込まれしかもよく連続することが明らかにされている。また酸性凝灰岩も龍神累層上部に多く挟み込まれることが明らかにされそれらの位置が地質図に示されている。
- 音無川層群は泥岩を主とする瓜谷累層泥質フリッシュ・等量フリッシュからなる羽六累層下部層砂質フリッシュ・砂岩を主とする羽六累層上部層に区分され全体として一つの上方粗粒化サイクルをなす。これらは衝上断層によって大きく繰り返して分布している。



- 本図幅の特色として 図幅地域全般にわたって岩相分布が克明に追跡されており 多数の走向傾斜が地層の上下確認とともに示されている。また 砂岩組成や古流向が重視されており それらは地質図と同縮尺の オーバレイ付図として付けられている。また 36ルートにわたる柱状図と標準地域7つのルートマップが示されている。
- 近年 四万十帯の地質はプレートテクトニクスとの関連で非常に注目されるようになってきている。その是非を論ずるためにも このような具体的な資料が不可欠であり この点でも本図幅は重要な意義を持っている。なお 四万十累層群の時代については 最近では放散虫生層序に基づく研究が進展しており 日高川層群の層序の再検討が上記グループによって進められているとのことである。

5万分の1地質図幅の新刊

龍 神

RYUJIN

5万分の1地質図幅 地域地質研究報告

著 者 徳岡 隆夫・原田 哲朗・井内 美郎
石上 知良・木村 克己・公文富士夫
中條 健次・中屋志津男・坂本 隆彦
鈴木 博之・谷口 純造

発 行 工業技術院 地質調査所

取 扱 先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401

• 龍神地域は紀伊半島の中央部に位置し 古来から 京での戦いに敗れた平家や 勤皇の武士が 落ち延びていった山深き所である。日高川の清流が本地域を流れ 有吉佐和子の小説「日高川」で美事に描かれた龍神温泉が湧出しており 剣豪机 龍之介もこの地で疲れを癒したと伝えられている。本図幅はその南の「栗栖川」更に南の「江住」図幅と一連の研究としてなされたもので 著者らを含む「紀州四万十帯団体研究グループ」及び 「はてなし団体研究グループ」のこれまでの成果がまとめられたものである。

地質ニュース

第328号 12月号
定価 ¥540 千実費
発行 工業技術院 地質調査所
林 久 雄
株式会社 久業公報社
東京都千代田区九段南4の2の12
Tel. (03) 265-0951 (代表)
振替口座 東京 32466
総発売元 大蔵省印刷局 政府刊行物仕入部
東京都港区赤坂葵町2
Tel. (03) 582-4866